

図1-1 外来および入院の小児インフルエンザ症例の年齢分布

2002/03シーズンに、インフルエンザ迅速検査で陽性の、外来および入院小児例の年齢分布を示した。
平均年齢は、A型が4.1歳、B型が6.4歳であった。

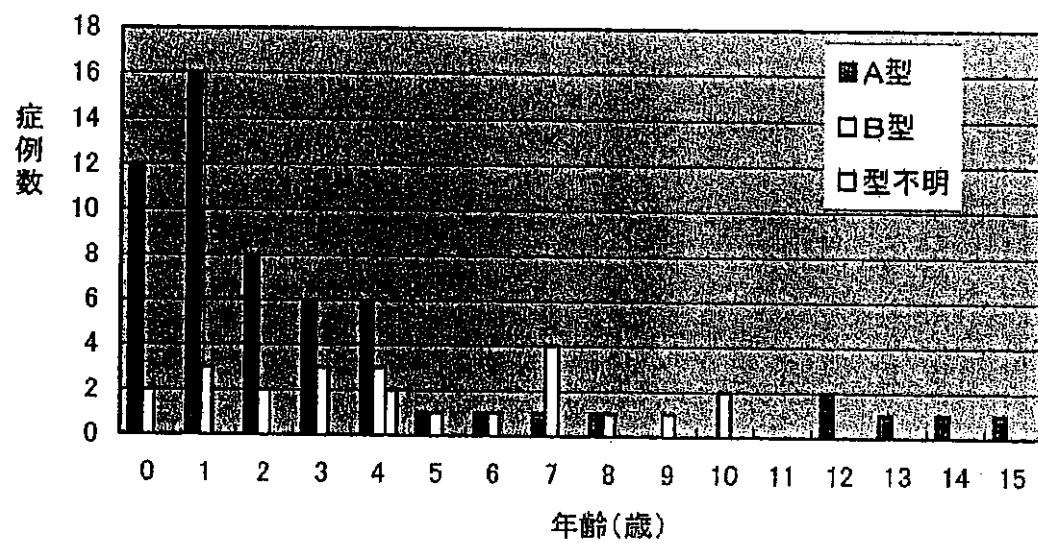


図1-2 小児インフルエンザ入院例の年齢分布

2003/04シーズンに、インフルエンザのため入院した小児82例の年齢分布を示した。
外来症例数はB型がA型よりやや多かったが、入院例は1歳前後のA型が多い傾向であった。
(川崎市立川崎病院小児科)

抗インフルエンザ薬の比較

表2 抗インフルエンザ薬

	オセルタミビル	ザナミビル	アマンタジン
商品名	タミフル	リレンザ	シンメトレル
有効ウイルス	A,B型	A,B型	A型
投与法	経口	吸入	経口
予防効果	あり	あり	あり
用量調節	体重(小児)	なし	年齢・体重・腎機能
副作用	軽度消化器	まれ・気道刺激	中枢神経・消化器
耐性ウイルス	1~9%	1例報告のみ	約30%
臓器分布	全身 (中枢神経移行なし)	ほとんど局所 (口腔～下気道約90%)	全身 (中枢神経移行あり)
排泄	腎	腎	腎
半減期	6~10 時間	2~5 時間	10~12時間
本邦での承認	治療 成人・小児	治療 成人	治療・予防 成人
小児治療量	2mg/kg/回 1日2回 5日間 (75mg/回まで)	10mg(2ブリストー)/回 1日2回 5日間	5mg/kg 分2 5日間 (100mg/日まで)

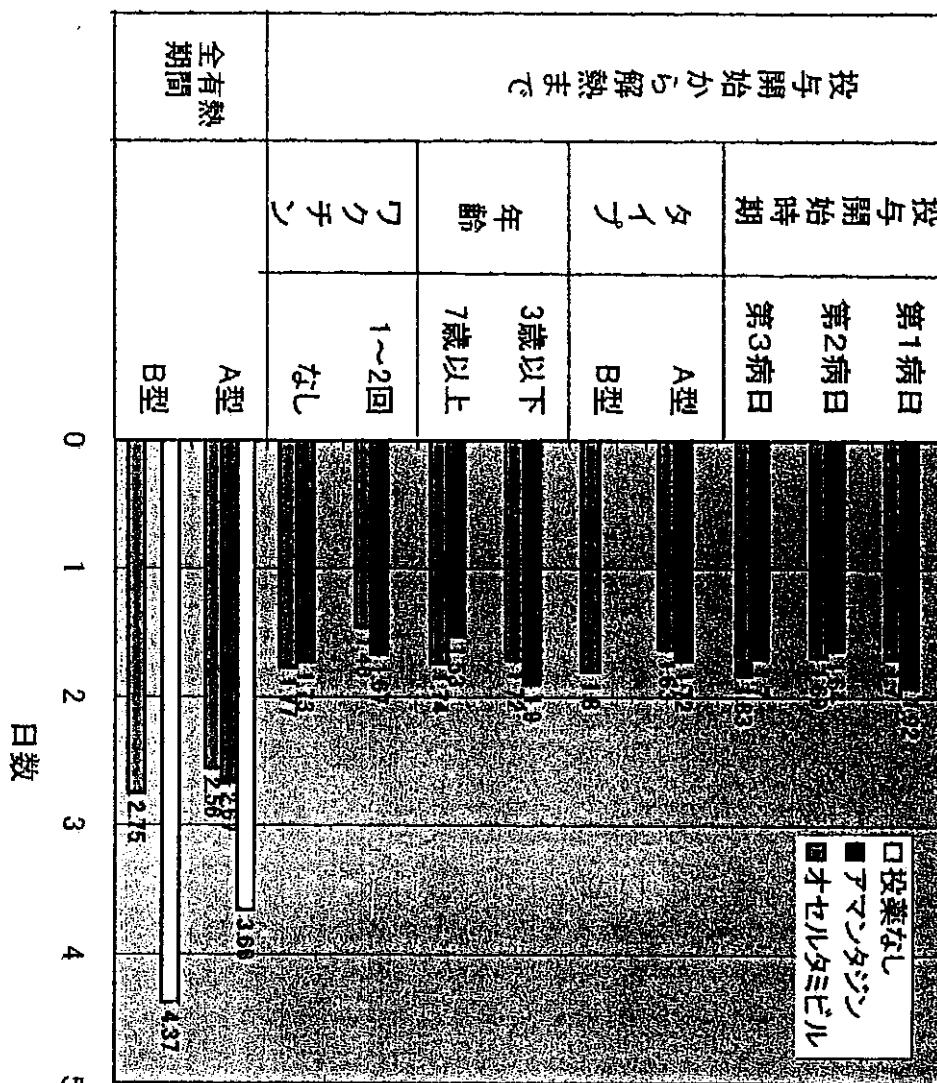


図3

小児インフルエンザ外来症例における抗インフルエンザ薬の有効性
1999年から2002年の3シーズンに、外来の小児インフルエンザ症例に発症2日以内に抗インフルエンザ薬を投与開始した。検討時期が異なるが、アマンタジンとオセルタミビルの差は認められなかった。投与開始が早いほど全有熱期間は短く、A型とB型、年齢、ワクチン接種の有無での有意差はなかった。(日本鋼管病院小兒科)

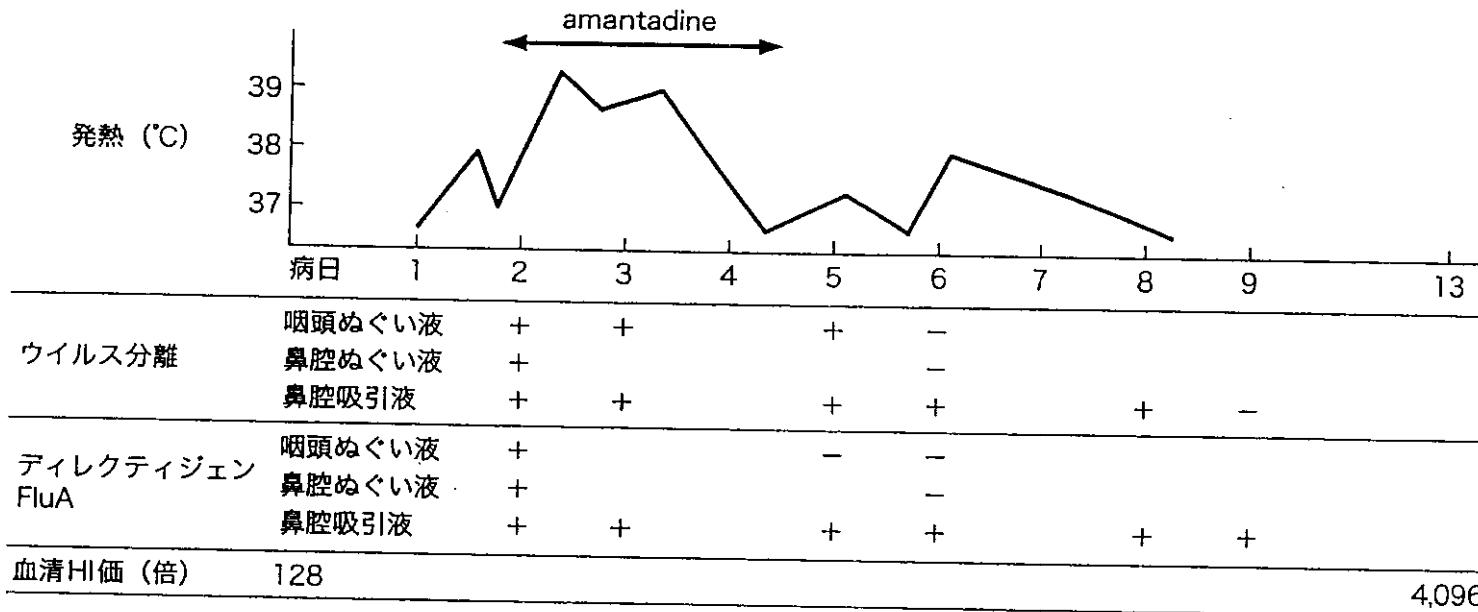


Fig. 6. A 香港型インフルエンザの小児例

1歳男児。川崎病でγグロブリン大量療法後、入院中に母親から感染。ワクチン接種済み。aspirin を中止し amantadine を投与。軽症だったがウイルス排泄が続き、amantadine 耐性株が出現した。

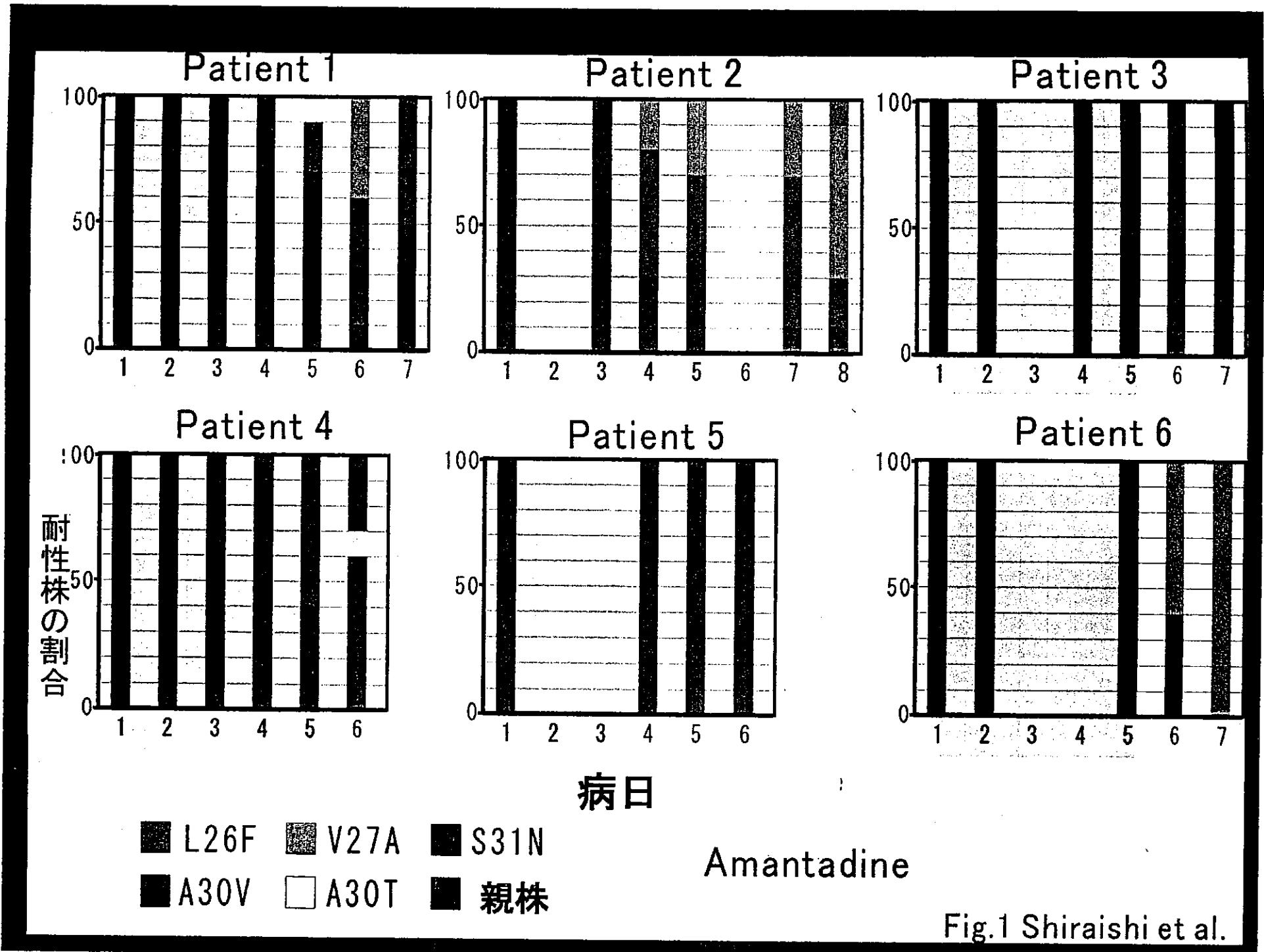


表2 小児インフルエンザに対するオセルタミビルの有効性の検討
—投与開始から解熱までの日数の比較—

	症例数	投与から解熱までの日数	2日目までの解熱(%)
タイプ	A型	74	1.63
	B型	44	1.80
ワクチン	+	22	1.46
	-	109	1.77
年齢	7歳以上	51	1.72
	3歳以下	44	1.77

インフルエンザ発症2日以内にオセルタミビルの内服を開始し、解熱するまでの日数。A型とB型、ワクチン接種の有無、年齢群での差は認められなかった。(日本钢管病院小児科)

Table 1 Mean duration of fever in patients receiving oseltamivir according to the time of illness onset

Onset of illness	n	Mean duration of fever after oseltamivir treatment (days) *	Mean overall duration of febrile illness (days) **
On the day	31	1.70±0.95	1.70±0.95
1 day before	77	1.69±0.87	2.69±0.87
2 days before	23	1.83±0.58	3.83±0.58
3 days before	7	1.71±0.76	4.71±0.76

Values are mean±SD. *The mean duration of fever after oseltamivir treatment was not statistically different between the 4 groups ($p>0.05$). **The difference between the mean duration of febrile illness in the 4 groups was statistically significant ($p<0.01$).

Table 2 Mean duration of fever in patients receiving oseltamivir according to the type of influenza

Type of influenza	n	Mean duration of fever after oseltamivir treatment (days)	Mean overall duration of febrile illness (days)
Influenza type A	74	1.63±0.59*	2.56±0.99
Influenza A (H3N2)	15	1.85±0.56	2.58±0.90
Influenza A (H1N1)	10	1.67±0.50	2.33±0.71
Influenza type B	44	1.80±1.09*	2.75±1.22

Values are mean±SD. *The mean duration of fever after oseltamivir treatment was not statistically different between influenza type A and type B ($p>0.05$)